



The 1st International Symposium
for Women Researchers on
Advanced Science and Technology
conjugated with
the Seminar for Young Researchers
July 10-14, 2015

第1回理工系女性研究者国際シンポジウム
&
若手研究者との交流セミナー
報告レポート

女性研究者の様々な経験を次世代に伝える

平成 27 年 7 月 10 日-14 日の 5 日間、北九州市、九州工業大学戸畑キャンパス百周年中村記念会館および山口市、西の雅常磐にて The 1st International Symposium for Women Researchers on Advanced Science and technology conjugated with the Seminar for Young Researchers を開催致した。参加者総数は、招待講演者を含み 139 名、参加者国籍は 12 カ国、男女の比率はちょうど半々と当初の目的を達する形となった。

シンポジウムに先立ち、女性研究者の存在を身近に感じてもらうことを目的に、女子学生を中心とした企業見学会・交流セミナーを行った。セミナーは、W³ (ダブルキュービック) の有志メンバーが中心となり企画を行った。W³ は九州地方を中心に女性研究者らが集い、研究のみならず、女性研究者としての生き方等の意見交換の場として活発に活動している。これまでに、九州工業大学にて理工系女性研究者シンポジウムを 2 回 (2013 年, 2014 年) 開催し、産学官を超えて交流を深めてきた。このネットワークのアドバイザーや参加者の中には女性のみならず多くの男性研究者も含まれており、多様な視点から議論ができる新しい日本社会の研究ネットワークモデル構築の一端を担うと考えられる。

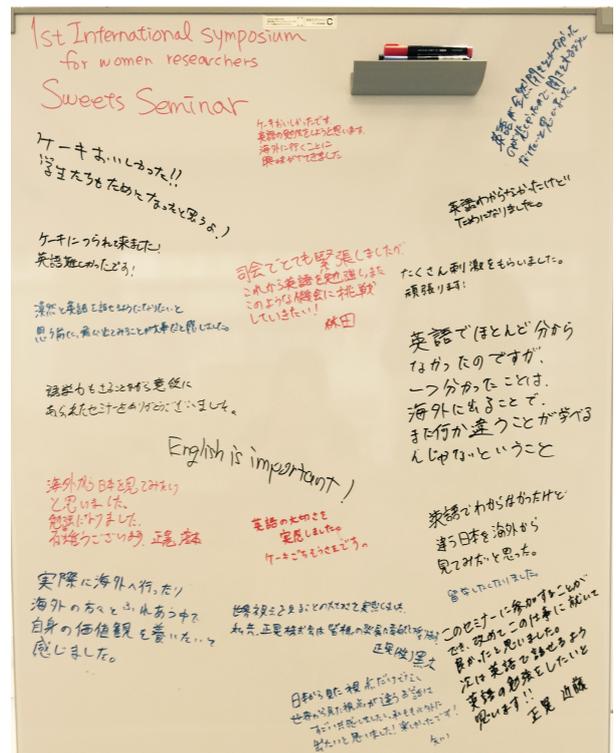
宇部興産アイプラザでは英語による企業の歴史に関するビデオや、展示室で現在取り組んでいる材料に関する説明があり、外国人参加者達も大変興味深く見学を行った。その後、興産専用道路を経由して、伊勢セメント工場・鉱山を見学した。普段なかなか目にすることができない鉱山の壮大な風景を目にし、様々な材料の元となる原料への興味が深まったように思える。夕食後は、学生司会による学生発表を行った。学生には英語あるいは日本語での発表と申し送りしていたが、ほとんどの学生が英語で発表を行い、積極的に外国人研究者と意見を交わしていた。企業見学や夕食等を通して、日本人学生の英語を話すことに対する苦手意識が少しずつ下がっていく様子が見て取れたのは喜ばしいことである。2 日目は、4 名の招待講演者による講演を行った。諸処の理由で、講演は日本語でとなったが、講演者からは女性を取り巻く環境や、それに伴う国の政策に対する意見なども含め、研究紹介を行って頂いた。英語が苦手な学生にも、いろいろと参考になったのではないかと期待する。

後半は、九州工業大学戸畑キャンパスに場所を移し、16 名の講演者による講演を行った。九州工業大学若手研究者フロンティア研究アカデミーのメンバーによる医歯工学連携課題を中心とした研究交流を基に、2014 年九州工業大学とポルト大学間での全学間協定が締結されたことから、ポルト大学より 4 名、ミーニョ大学より 1 名の講演者を招聘しヨーロッパでの女性研究者を取り

巻く環境を含めてお話頂いた。ポルトガル国内の女性研究者の割合は 47% を占め (世界第 3 位, Global Note2015 年 2 月更新) 多くの女性教員・女性研究者が活躍している。また九州工業大学海外拠点 MSSC があるマレーシア・プトラ大学の先生には、東南アジアでの環境も紹介して頂いた。一方、現在日本で活躍している外国人研究者からも、日本に就職したきっかけ等を紹介頂き、女性研究者だけでなく、留学生にとっても大変参考になる講演であった。

学生が司会進行を努めたスイーツセミナーでは、学生自身が持つ疑問について大変熱い議論を交わす場となった。特に、男女関わらず海外で学ぶという点において、学生からは英語能力に対する不安な意見が多く出たが、経験者からの様々な意見を聴いてセミナー後には、一度は留学等で日本の外に出てみたいという意見が増えた。懇親会においても、セミナー初日とはかなり異なり、学生が外国人研究者と積極的に交流する様子が多く見られ、大変充実した会となった。

昨今、女性研究者の増加を目指し多くのセミナーやシンポジウムが国内で開催されているが、ほとんどが日本人講演者・参加者のみで行われており、新しい形の社会形成にはまだまだ及ばない。また、宿泊を伴うセミナーには女性研究者・女子学生の参加は圧倒的に少ない。今回のシンポジウム&セミナーは、既存のものとは、異なり海外からの講演者を迎えて、留学生も参加可能な形を取り、できる限り新しい概念を取り入れるように努めた。今回の取り組みが、日本の女性研究者が抱える問題を解決する為の新しい道筋となることを期待する。



スイーツセミナー参加者による感想

参加者からのメッセージ

参加者総数: 139 名 男性 70 名 : 女性 69 名

参加者国籍: 12 カ国



My presence at this symposium was very pleasant. We were extremely kindly welcomed by committees. We visited UBE and saw their materials, from concrete to the most sophisticated materials for aerospace and polymers. The students presentations gave us the opportunity to follow their subjects and understand their motivation. The symposium provided contact with fellow researchers, male and female, Japanese and foreigners working in Japan, in areas of engineering especially health technology. The relevance of the great potential of female researchers in science and technology, was evident. Congratulations! (招待講演者)



日頃、自分が女性研究者であることをそれほど強く意識しているわけではない。それでも、こうして女性研究者同士で語り合うと、日常の細々した悩みが自分一人のものではなかったことがわかり大変心強い。何よりも女子会のように楽しい。そして、自分でそれと気づかないうちに、肩に力が入りすぎていたことにも気づかされた。いろいろなライフイベントやキャリアを積んでいる方々の話は、今後の人生に様々な選択肢があることを思い出させてくれた。女性男性問わず、それぞれが望む人生を自分で選ぶことができる、ワークライフバランスの多様性が認められる、そんな明るい未来もそう遠いものではないと予感することができた貴重な二日間だった。(招待講演者)



It was a great pleasure to be part of this event. Besides the great science, it was a unique opportunity to learn from the (professional and personal) experience of other woman fellows coming from all over the world and share my love for science and biomedical engineering, in particular, with the future generation of scientists. It was a scientific and cultural treat! I believe that some of the contacts I established will develop into collaborations in the future – tightening the bounds between my Research Center and other Asian groups. The event was excellently organized alloying its participants to enjoy excellent talks from different field of science and technology, as well as informal moments that promote the communication between participants. Congratulations to the organizing committee! (招待講演者)



本セミナーは、同様のテーマでの研究者の方々のマッチングのチャンスにあふれた場であったと思います。発表した学生の方が、講演された海外の大学教員から留学に誘われるなど、若手研究者の研究力向上の機会提供という点でも、素晴らしい成果があったのではないのでしょうか。また、女性研究者の活躍という視点からの忌憚ないお話を聞いたことも大変有意義でした。参考にさせていただきたいと思います。わが国で女性研究者がキャリアを中断せずに研究活動が続けていくためには、環境整備がまだまだ必要な状況ですので、このような女性研究者のネットワーク構築につながる機会は非常に貴重だと思います。このたびはありがとうございました。(一般参加者)



これまでに参加したことがないスタイルのセミナーシンポジウムで、食事やバスでの道中などたくさんの方と交流を広げることができ、とてもありがたかったです。また、宿泊の部屋も外国の方と同室だったり、温泉付きの旅館だったりと国際色も出て話も盛り上がり楽しかったです。年齢遅めの博士女性で不安も大きかったです。先輩方のお話のためにになりました。また次回開催される際は、お声掛けいただければ嬉しいです！(博士課程学生)



Very nice experience! It was a good opportunity to be in contact with very good researchers from different fields and countries! During the presentations and the sweets seminar we had the chance to hear from the senior researchers their experiences out of their native country and, concerning women researchers, their amazing ability to manage motherhood and research work. In terms of organization, the organizers and staff were always kind and attentive to our needs. (博士課程学生)



This is the first seminar that quite different from normal symposiums or conferences that I joined before as it allow me to bring my kid. The whole activities and programs also were not too formal which make us more relax and enjoyed. One of the activity by visiting UBE Industry was very good because we can gain some knowledge, information and also technologies used by Japanese. The oral presentation was held very casual but very short time. Since my field is quite different from other participants and lecturers, I did not get enough feedback to improve my research. The presentation by invited speakers was delivered in Japanese which I cannot join, to understand and gain some information from different field. Overall, I satisfied with the seminar and thank you for accepting me to join this seminar. I would like to join this kind of activities in the future. (博士課程学生)

交流セミナーは、大学の先生方だけでなく、研究所や企業の方々とも交流できる貴重な機会となり、とてもよい刺激となりました。また、英語に終日ふれることができたことは、よい経験となりました。工場見学・学生発表・セミナーと内容も充実しており、二日間では足りないくらいでした。英語の発表も経験することができ、事前準備から発表当日まで、とてもよい勉強となりました。二日間、海外と日本との違いや、日本社会での女性の地位(立場)など、考えさせられる点もあり、日々の研究や生活について、見つめ直す機会ともなりました。運営された先生方、本当にありがとうございます。また、このような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。(修士課程学生)

今回の交流セミナーでの学生発表は私にとって初めての外部に向けての発表で、不安が大きい反面、とても楽しみにしていました。いざ本番に臨むと、緊張で早口になり、質疑応答では、聞かれていることは分かるのに英語で説明できないもどかしさを感じ、自分の英語力の至らなさを反省しました。また、今回のセミナーでは、他大学や、海外の大学の学生、先生方と存分に交流することができ、非常に有意義な体験になりました。このような素晴らしい体験をさせていただけたことに感謝し、今回受けた刺激を忘れずに、これからも研究に励もうと思いました。(修士課程学生)

理系女子セミナー、シンポジウムに参加させていただきました。ポルト大学の先生たちと身近で話す経験はとても貴重でした。中でも、個人的で申し訳ないのですが湯田温泉付近の案内では日本の文化を100%伝えることが出来ずもどかしい思いもしましたが、観光案内をしたことは非常にいい経験になりました。スイーツセミナーでも外国に行く機会があれば絶対行った方がいい、日本から見る日本と世界から見る日本は違う、とお話がありましたが、本当にその通りで日本について思った以上に知らないことは多いと感じました。この先どういう進路をとるかは分かりませんがチャレンジ精神をもって色々なことに取り組んでいきたいです。理系女子セミナーに参加して良かったです。(修士課程学生)

海外の先生方に対して自分の研究内容を英語で発表するという貴重な経験を通して、今まで以上に英語力を向上させなければならないと実感した。また、女性研究者の方々の講演を聞いて、もっと女性が働きやすい環境を作っていく必要があると思った。このためにも、今回のようなセミナーに男性が積極的に参加すべきだと感じた。(修士課程学生)

今回、理系女子のシンポジウムということでしたが、男性である自分にとっても有意義なものになったと感じました。特に海外の講演者の方が来られたことで海外に対しての意識の高まりを感じましたし、海外の女性の考え方を学ばせて頂きました。また英語に対する抵抗感が今の自分にはまだあるなど気付かせて頂いた時間でもありました。社会で働く女性の強さも感じ、少しはじろぎもしましたが自分も負けないように積極的に物事に取り組んでいこうと考えました。来年はもっと海外の方ともコミュニケーションを取れるように成長し、日本の教授や会社の人にもお酌(交流)をしたいと思います。(修士課程学生)

シンポジウムがあることを知らない学生がいたので、早めに呼びかけることでもっと多くの学生の参加が期待できると思いました。また、スイーツセミナーでは学生からの質問がでたり、就活に関しての話が聞けたりしてよかったです。会場が離れていたのも、同じ建物内でできたら便利がいいと感じました。今回はあまり講演を聞くことが出来なかったのも、次回はもっと多くの講演を聞きたいと思います。(修士課程学生)

シンポジウムすべてに参加できたわけではないですが、僕が講演を聞きに行った時は参加者がちょっと少ないなと感じました。次回はもっと宣伝を行い、多くの人が集まる学会になればと思いました。スイーツセミナーでは修士の学生だけでなく学部生もたくさん来ていて、海外の先生を含め研究者の方々の話を聞けてとても良いセミナーだったと思います。個人的には英語力、積極性が必要であると再度痛感しました。次回、またこのような機会があれば、積極的に参加し海外の方ともっとコミュニケーションをとれるように頑張ろうと思いました。(修士課程学生)

化学に関する英語での講演は何度か出席したことがあるためある程度は理解できますが、今回の理系女子シンポジウムでは建築の方のお話があり、まったく英語を理解することができなかつたので今後の英語学習へのモチベーションが向上しました。スイーツセミナーでは、学生も企業の方も積極的に議論しており、有意義な時間を過ごせました。(修士課程学生)

女性研究者シンポジウム、セミナーを通して他大学の学生、先生方と交流でき、良い刺激になり、学生発表では自分の未熟さを痛感し、さらに学んでいかなければならないと感じる良い機会となりました。第二回女性研究者シンポジウムも是非参加させてください。(学部学生)

英語しか話せない方と英語でのコミュニケーションを初めて経験することができました。伝えたいことが頭に浮かんでいても、それを英語にすることがなかなかできず、英語を話せるようになりたいと強く感じました。今回のセミナーは自分の英語力を見直す良い機会になりました。(学部学生)

今回のように所属も分野も違う方々と交流できる機会というのはあまりないため、興味深い話も多く、また女性研究者の先輩方がこれまで感じてきたこと、どう考えてきたのかといったお話を伺うこともでき、とても楽しかったです。シンポジウムを通して、女性はもちろん男性にも女性研究者の立場や待遇といったものに関してもっと広く関心を持ってもらえたらと思います。(学部学生)